

江戸時代の看板に着目した街並みの演出についての研究 —埼玉県川越市「一番街商店街」を対象として—

東洋大学 学生会員 ○永山 綾香
東洋大学 正会員 神山 藍

1. 研究の背景及び目的

川越市は、天正 18 年（1590）徳川家康の支配に伴い、川越藩が置かれた。江戸幕府は川越を江戸の北の守りとして重要視し、有力な大名のひとりである松平信綱を藩主として置いた¹⁾。信綱は、城地と城下町を拡張し、整備した。そのため、川越は江戸に最も近い城下町として繁栄し、川越「小江戸」と称された²⁾。商業都市として栄える中、明治 26 年の川越大火をはじめとする 6 回の火事の被害にあったため³⁾、城下町には耐久性に優れた蔵造りが定着した。このため現代でも、川越城下には江戸時代の蔵造りを中心とする街並みが残されている。

一般に、街並みは、建物と街路によって形成され、特に街路に面した建物の壁面の影響は大きい。近年では、この壁面部に設置される屋外広告物の設置が問題となっている。一方で、江戸時代にも多種多様な看板が利用されているにもかかわらず、良好な街並みを形成していると言える。

そこで、本研究では、街並みを構成する要素のひとつである看板に着目し、江戸時代の代表的な看板と現在の看板を比較し、研究を進める。江戸時代の看板形態と街並みの演出効果を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

江戸時代の看板については、江戸時代の代表的な 226 店舗の看板が説明されている『江戸看板図譜』⁴⁾を参考に、同書に描かれている看板 574 枚の絵図を整理する。

現在の看板については埼玉県川越市「一番街商店街」を研究対象地とし、現在の看板を調査する。江戸時代の看板と「一番街商店街」の店舗の看板の比較により、現在の店舗で江戸の街並みを残す看板について明らかにする。

2.1 江戸時代の看板の分類

江戸時代の看板の分類は、『江戸看板図譜』の著者である林美一氏の分類⁵⁾（以下、林式の分類）を採用する。店舗の種類ごとの看板絵図を林式の分類に従い整理する（表 1）。林式の分類は、3 段階に分かれ、第 1 段階は看板の形態によって実物看板、平面看板、立体看板に 3 つに分類されている。本研究では、これを分類 I とする。第 2 段階は、分類 I が看板の種類によって A～K に細分化されている。これを分類 II とする。更に、第 3 段階として分類 II の C 及び D のみが更に I～VI の 6 つに細分類されている。これを分類 III とする。以下では、例えば、分類 II が C、分類 III が I に属する場合、C-I として表記する。

表 1 林式の分類⁶⁾

看板の形態	看板の種類		看板の種類の細分類化	
	記号	分類	記号	細分類
分類 I 実物看板	A	商品を利用	分類 III	I 下げ看板 II 掛看板 III 屋根看板 IV 建看板 V 立看板 VI 高札看板
	B	商品以外を利用		
	C	方形の板看板		
	D	変形の板看板		
	E	衝立看板		
	F	立掛看板		
	G	旗・幟・暖簾		
	H	建具看板		
	I	箱看板		
	J	行燈・提灯看板		
	K	作り物・模型看板		
分類 II 平面看板				
分類 III 立体看板				

2.2 現地調査と現在の看板の分類

川越市「一番街商店街」の 105 店舗を対象に、使用されている看板を撮影し、看板の形態についての現地調査を行う。撮影した店舗看板の種類を林式の

分類により、分類する。

2.3 江戸期と現在の看板比較

分類した『江戸看板図譜』の絵図と「一番街商店街」の撮影写真を比較し、江戸の看板と現在の店舗の看板の演出について明らかにする。

3. 江戸の看板と「一番街商店街」の看板の特徴

『江戸看板図譜』に記載されている絵図(574 枚)を表 2, 「一番街商店街」で撮影した看板(83 枚)を表 3 に示す。また、『江戸看板図譜』と「一番街商店街」の代表的な看板をそれぞれ表 4, 表 5 に示す。以下では各分類の看板の利用率を参考にその特性を明らかにする。

表 2 『江戸看板図譜』の分類

看板の種類	記号	分類 I		分類 II		分類 III		
		看板の数	比率 (%)	看板の数	比率 (%)	看板の数	比率 (%)	
実物看板	A	48	8.36	42	7.32			
	B			6	1.05			
平面看板	C	357	62.20	199	34.67	I	118	47.39
						II	41	16.47
						III	16	6.43
						IV	13	5.22
						V	8	3.21
						VI	3	1.20
						VII	3	1.20
	D			I	37	14.86		
				II	8	3.21		
				III	1	0.40		
				IV	4	1.61		
				V	0	0.00		
				VI	0	0.00		
				VII	0	0.00		
E		25	4.36					
	F	2	0.35					
	G	68	11.85					
	H	13	2.26					
	立体看板	I	33			5.75		
		J	78			13.59		
K		58	10.10					
合計		574	100	574	100	249	100	

3.1 分類 I の分析からの比較

『江戸看板図譜』に記載されている看板と「一番街商店街」(分類 I)において、最も多く利用されている看板の種類は、両者とも平面看板であり、6~7 割を示す。しかし、2 番目に多い看板形態は異なり、江戸の看板では、立体看板(29%)、「一番街商店街」では、実物看板(25%)である。

現在では、立体看板より、実物看板が多く利用されていると言える。

3.2 分類 II の比較分析

分類 II において、『江戸看板図譜』に記載されている看板は、平面看板の中でも分類 C の方形板看

板 (34%) が最も多く利用されている(表 2)。

表 3 『一番街商店街』の分類

看板の種類	記号	分類 I		分類 II		分類 III		
		看板の数	比率 (%)	看板の数	比率 (%)	看板の数	比率 (%)	
実物看板	A	21	25.30	19	22.89			
	B			2	2.41			
平面看板	C	57	68.67	19	22.89	3	8.57	
						5	14.29	
						1	2.86	
						0	0.00	
						0	0.00	
						0	0.00	
						10	28.57	
	D			I	4	11.43		
				II	4	11.43		
				III	3	8.57		
				IV	0	0.00		
				V	0	0.00		
				VI	0	0.00		
				VII	5	14.29		
E		0	0.00					
	F	2	2.41					
	G	20	24.10					
	H	0	0.00					
	立体看板	I	0			0.00		
		J	3			3.61		
K		2	2.41					
合計		83	100	83	100	35	100	

しかし、「一番街商店街」では、現在の看板分類 G の旗・幟・暖(24%)に続き、C の方形の板看板(22%)が多く利用されている(表 3)。この理由として、現在では、簡易的な旗形状の看板(表 5 の G)が利用されているためである。

次に、利用頻度が高い江戸の看板は、分類 J の行燈・提灯看板(14%)であるが、「一番街商店街」では、A の商品を利用した看板(23%)である。現在では、行燈や提灯の利用より、商品を利用した看板が多い理由として、ショーウィンドウの様な陳列窓(表 5 の A)が設置される店舗の形態が多いことが考えられる。

平面看板に関して、分類 E の衝立看板、H の建具看板の利用はない。平面看板の E の衝立看板(表 4 の E)が現在利用されない理由として、衝立看板は、座敷に置く衝立の形式を利用して店頭飾るための置看板であり、現在の店舗では、街路に開けた座敷が広告の場として利用されていないからだと考える。

現在では、C の方形の板看板は江戸と同様に継続利用されているが、I の箱看板、J の行燈・提灯看板、K の作り物・模型看板の立体看板の利用は少

表4 『江戸看板図譜』の絵図の分類表

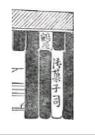
分類Ⅰ	分類Ⅱ・Ⅲ		分類Ⅰ	分類Ⅱ・Ⅲ		分類Ⅰ	分類Ⅱ・Ⅲ	
実部看板			D-I 下げ看板 ¹⁵⁾			平面看板		絵図なし
	A 商品の利用 ⁷⁾	B 商品以外 ⁸⁾		D-II 掛看板 ¹⁶⁾	G 旗・幟・暖簾 ²²⁾		H 建具看板	
平面看板			平面看板			立体看板		
	C-I 下げ看板 ⁹⁾	C-II 掛看板 ¹⁰⁾		D-III 屋根看板 ¹⁷⁾	D-IV 建看板 ¹⁸⁾		I 箱看板 ²³⁾	J 行燈・提灯 ²⁴⁾
				絵図なし			K 作り物・模型看板 ²⁵⁾	
	C-III 屋根看板 ¹¹⁾	C-IV 建看板 ¹²⁾		D-V 立看板	D-VI 高札看板 ¹⁹⁾			
							E 衝立看板 ²⁰⁾	F 立看板 ²¹⁾
	C-V 立看板 ¹³⁾	C-VI 高札看板 ¹⁴⁾		E 衝立看板 ²⁰⁾	F 立看板 ²¹⁾			

表5 「一番街商店街」の絵図の分類表

分類Ⅰ	分類Ⅱ・Ⅲ		分類Ⅰ	分類Ⅱ・Ⅲ		分類Ⅰ	分類Ⅱ・Ⅲ				
実部看板			D-I 下げ看板			平面看板		該当なし			
	A 商品の利用	B 商品以外		D-II 掛看板	G 旗・幟・暖簾		H 建具看板				
平面看板			平面看板		該当なし	立体看板	該当なし				
	C-I 下げ看板	C-II 掛看板		D-III 屋根看板	D-IV 建看板		I 箱看板	J 行燈・提灯			
		該当なし		該当なし	該当なし		K 作り物・模型看板				
	C-III 屋根看板	C-IV 建看板		D-V 立看板	D-VI 高札看板						
	該当なし	該当なし		該当なし			E 衝立看板	F 立看板	その他		
	C-V 立看板	C-VI 高札看板		E 衝立看板	F 立看板					C-VII 横看板	D-VII 横看板

ない。

立体看板のIの箱看板(表4)が利用されていない理由として、箱看板は、木枠を立方体に組んだ上に紙を貼った箱型の屋外看板のことであり、現在では電力の普及からIの箱看板が衰退したことが考えられる。

3.3 分類Ⅲの比較分析

分類Ⅲを見ると、江戸時代に、最も多く利用されている看板は分類C-I下げ看板(47%)である。一方で、「一番街商店街」では、C-VII横看板(29%)である。江戸の看板では、表4のC-Iの様に壁面に対して垂直に設置され、側面から看板を見る形式のC-Iの下げ看板に対し、「一番街商店街」の看板は表5のC-VIIの様に屋根に設置され、正面から看板を見る形式である。C-VII、D-VIIの横看板とは、江戸時代ではほとんど利用されていない特殊看板であり(表5のC-VII、D-VII)、1階建物の底上に配置される看板であり、表1の分類には記載されない。

次に利用されている看板として、『江戸看板図譜』と「一番街商店街」のどちらも、C-II掛看板(表4のC-II、5のC-II)である。

ほとんどの江戸の店舗では、建物の側面に配置される看板形態、つまり街路から看板が見える形態が多い。しかし、現在では、建物の正面から看板を見る形態も多く利用されていると言える。

4. 結論

本研究では、街並みを構成する要素のひとつである看板に着目し、江戸時代と現在の看板を林式の分類により整理し、両時代の街並みの演出効果を明らかにした。

その結果、分類Iにおいて、現在では、立体看板より、実物看板の多く利用されていると言える。これは、広告の場所として利用されていた座敷空間がショーウィンドウの様な陳列看板に移り変わったためである。分類IIにおいて、現在では、方形の板看板は江戸の看板同様に多く利用されているが、旗・幟・暖簾と商品を利用した看板が多用される傾向にある。特に、現代では、簡易的な旗状の看板の利用が多い。

分類Ⅲでは、方形の板看板と変形の板看板があるものの、現在、利用のない看板があることから、看

板の種類が減少していると言える。一方で、江戸時代には利用のほとんどない底の上に載せる横看板の利用の増加が明らかとなった。

以上から、江戸の看板と現在の看板では、看板形態を踏襲しつつも、見せ方に変化があった。江戸では、街路から看板を見せる看板演出に対し、現在では、建物の正面から見せる看板演出に変化していると言える。また、店舗形態の変化に伴い、看板の種類が限定されるが、横看板のように新たな形態が生まれる例もあると言える。従って「一番街商店街」では、江戸の看板の形態を継承しながら江戸の街並みの演出を効果的に再現しつつ、時代の変化に伴い、新たな看板演出も行っていると言える。

参考文献

- 1) 下中弘：埼玉県の名地名，平凡社，1993年，p. 365.
- 2) 前掲書，『埼玉県の名地名』，p. 365.
- 3) 前掲書，『埼玉県の名地名』，p. 369.
- 4) 林美一：江戸看板図譜，三樹書房，1977年
- 5) 前掲書，『江戸看板図譜』，pp. 17-19.
- 6) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 19.
- 7) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 128.
- 8) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 111.
- 9) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 73.
- 10) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 38.
- 11) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 62.
- 12) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 105.
- 13) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 104.
- 14) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 258.
- 15) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 66.
- 16) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 134.
- 17) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 46.
- 18) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 143.
- 19) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 36.
- 20) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 67.
- 21) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 164.
- 22) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 109.
- 23) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 50.
- 24) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 86.
- 25) 前掲書，『江戸看板図譜』，p. 139